

北山 太樹：

C. van den Hoek, 千原光雄著「日本及び極東ロシア沿岸の
海産緑藻シオグサ属（緑藻植物）の分類学的再検討」の紹介
(C. van den Hoek and M. Chihara.; A Taxonomic Revision of the Marine Species
of *Cladophora* (Chlorophyta) along the Coasts of Japan and the Russian Far-east)

Christiaan van den Hoek 博士（フローニンゲン大学名誉教授）と千原光雄博士（千葉県中央博物館館長）による日本および極東ロシア沿岸の海産シオグサ属モノグラフが国立科学博物館モノグラフシリーズから出版された。詳細なイラストなど100枚の図版を含む英文242頁の大作である。

著者についての紹介は不要と思われる。このあまりにも著名な蘭日2大藻学者の意表をついた組み合わせは、当館での出版計画を下达されたときの私にも驚きであった。しかし、36年前の「藻類」第13巻第1号（1965）の「新著紹介」の頁（p. 29-38）を開いてみると、すでにこのことを暗示していたような記事を読むことができる。当時国立科学博物館に勤務されていた千原博士の「最近

のシオグサ類の研究紹介」である。曰く「1962年から1964年にかけての3年間は、藻類学の分野における緑藻植物シオグサ類（*Cladophora* complex）の研究に関しては、まさに大豊作の感があった。すなわちこの期間に100頁を遙かに凌駕する量をもつ四つの研究報告の発表があった」。そして、Jonsson (1962), Söderström (1963)の著作に続けて、van den Hoek 博士の学位論文であった「Revision of the European species of *Cladophora*」(1963)と故阪井与志雄博士（北海道大学名誉教授）の学位論文「The species of *Cladophora* from Japan and its vicinity」(1964)を挙げられている。

実際この二つは、20世紀中の世界のシオグサ類研究のベースでありつづけた大著で、1964年生まれの私にとってさえ、シオグサ類の同定を行うときには、van den Hoek 論文は聖書であり、阪井論文が仏典であった。20世紀最後の年に至り、van den Hoek 博士と千原博士が、阪井論文を "Sakai's (1964) excellent work on Japanese *Cladophoras* was the starting point" (p. 4) と位置づけ、シオグサ属の分類学を集大成した本書を当館から世に出されたことは、かの記事が書かれた時からの宿命であったのかもしれない。

本書は12章で構成されている。第1章の序文・材料と方法・謝辞を読むと、オランダからみてヨーロッパ・ユーラシア大陸の最果てに位置する日本と極東ロシアのシオグサに取り組むにあたり、van den Hoek 博士が、いかに多くの日本の藻類研究者と接触して、広く標本を入手しようと尽力されたかがうかがえる。まず、van den Hoek 博士は千原博士（当時筑波大学生物科学系）の招きで1990年の4月6日に来日し、筑波大学をベースキャンプにし、6月15日までのおよそ2カ月余にわたる日本列島縦断の採集・標本調査旅行を成し遂げられた。採集地と研究機関を挙げると、沖縄・琉球大学瀬底海洋センター（4月6-14日）、国



写真1 銚子市犬吠埼を採集する van den Hoek 博士 (1990年4月)

立科学博物館（4月20、21日）、下田・筑波大学臨海実験所（4月23-28日）、銚子（4月29日）、八丈島（5月12-17日）、岩屋・神戸大学臨海実験所（5月21-25日）、東邦大学（5月29日）、忍路・北海道大学理学部（5月31-6月6日）、函館・北海道大学水産学部（6月6-8日）、室蘭・北海道大学海藻研究所（6月8-10日）。謝辞には、この日本探検を歓迎し、協力された人々の名前が感謝の言葉とともに3頁にわたって綴られている。当時北海道大学で大学院生だった私も、このオランダからの偉人の来日に遭遇することができた幸運なひとりで、やはり北大らしくジンギスカンパーティーを開いて歓迎したことを憶えている。この大旅行の足跡は、各地でvan den Hoek博士自身が採集した膨大な数の標本からもたどることができるが、タイプを含むそれらの標本は、証拠標本として国立科学博物館植物研究部（TNS）に寄贈されたので、本書を手に入れられた方は是非来館して閲覧していただきたい。また、上記以外の多くの藻類ハーバリウムからも多数のシオグサ標本がvan den Hoek博士に送られ、研究に供されている。特に梶村光男博士（島根大学名誉教授）が多年にわたり隠岐島で採集された標本は、種数点数ともに充実しており、日本海に分布するオオシオグサに対して新設された変種 *Cladophora japonica* var. *kajimurae* のタイプも含まれている。幸運にも梶村博士のご厚意によりこれらの標本も研究完了後に国立科学博物館に寄贈していただけることになった。感謝の念に堪えない。



写真2 筑波大学の千原研に滞在中のvan den Hoek博士（前段中央）（1990年6月）

第2章にはシオグサ属の検索表を示し、第3章でシオグサ属の範囲、系統、地理的分布が議論されている。このグループの分類研究の全貌を知るのに簡潔で最適な内容である。あとに続く第4章から第12章までの9章は、それぞれシオグサ属の9節（うちひとつはロシア産）にあてられている。そのうち1節はヒラシオグサ節（Section *Willella*）で、van den Hoek (1982)に従ってヒラシオグサ属の独立性を認めていない。本書に記載されたシオグサ属は、本邦および極東沿岸に分布する30種2変種で、うち6種が新種、2変種が新変種、11種が日本新産である。和名を付していないものがあるので、それらについては、千原博士が本誌上に掲載する予定の由である。

阪井論文のあとの36年間、多くの修正・追加がなされながらもまとまった仕事なかった日本産シオグサ属の分類体系を本書が劇的にリニューアルしたことにより、この属が抱えていた日本産種の同定の困難さはかなり解消されたのではないかと思われる。ロシア文学への転向も噂されるvan den Hoek博士と、要職にあつてなお日本の藻類学を牽引しつづける千原博士との日蘭同盟による無敵のモノグラフであり、藻にかかわる研究者必携の書である。

本書は、国立科学博物館ミュージアムショップ（東京都台東区上野公園7-20本館地下1階）にて、定価2400円で販売されている。ただし、藻類研究者には論文別刷・著書等の文献寄贈と交換に無料進呈も行っているため、希望される方は下記宛にお送りいただければ幸いである。

305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館植物研究部「藻類交換図書」係
北山太樹

問い合わせ先：
国立科学博物館植物研究部 北山太樹
Tel 0298-53-8975, Fax 0298-53-8401
E-mail kitayama@kahaku.go.jp